

ゆうかり放送委員会提供
ゆうかりに乾杯

第155回放送の概要 (2021年10月2日放送)

パーソナリティ

たろう

(佃 由晃)

なか

(中嶋邦弘)

くらら

(河野真紀)

あきこ

(村上明貴子)



ミキサー

門ちゃん

(門田成延)

かりん(妹尾優香)

ふじた(藤田 学)

ふじ(藤岡 哲)

会計

小山俊則

相談役

わだかん

(和田幹司)

最終回放送を迎えて：司会 金千秋。ゲスト 門田成延、小山俊則、中嶋邦弘

「ゆうかりの葉、ゆうかりの葉、ゆうかりの葉を押し立てろ！ ヤーレヤレー グルマイタホイ！ ゆうかりの葉、ゆうかりの葉、ゆうかりの葉を押し立てろ！ ヤーレヤレー グルマイタホイ！（コンコン コン プシュー ドクドクドクン） ゆうかりに！ 乾～杯～！」

「ゆうかりに乾杯」番組のオープニング、すごいハイカラな感じで始まりましたが、今日はスタッフのみなさんにお出でいただいています。マスクをしているので難しいところもあるかと思います。FM わいわいの金千秋が本日の司会進行をさせていただきます。

1. スタッフ自己紹介

(中嶋) 中嶋です。「中ちゃん」(スタジオ・ネーム) と言っていました。(兵庫高校武陽会の) 49陽会です。

(門田) 門田、「門ちゃん」です。同じく49陽会です。

(金) 49陽会、「四苦八苦」ですか？

(中嶋) 「四苦」ではなく「良く」と読むんです。

(金) 失礼しました。(笑い)

(小山) 小山です。(ゆうかり放送委員会の) 会計をやってました。当初、お金が要るので、あちこちの同級生とか知り合いにお願いして、コマーシャル料を頂いてました。はじめはそれでやってこれたんです。

(金) すごい事ですよ。素人さんたちが集まって。

(小山) コマーシャル料をくれ、というのではなく、これこれしかじかの放送をするので、賛同してくれるならコマーシャルをするので頼むと。

(金) その様な苦労の中、154回続いて今日が155回目、チャンチャンと綺麗に締めよう、ということでお越しいただきました。

2. 番組の発足

(金) 番組を制作するに当たって、FM わいわいとの関係では、「阪神淡路大震災」という「震災」名称ですが、気象庁では「兵庫県南部地震」というそうで、これが大きな切っ掛けでした。1995年当時、中ちゃんはどうされてましたか？

(中嶋) 私は県庁でのほほんとしておりましたら大地震が起きていっぺんに災害対策本部詰めです。

(金) それがFM わいわいと関わりの中で、色々なことに繋がったのですね。

(中嶋) あの時、(身近な)生活情報などを(せめて英語も)ラジオ・テレビで流してもらおうと各放送局を回りましたが、なかなかそこまで手が回らないとかで実現せず、そんな時にFM放送のハシリとして「ヨボセヨ(放送)」でしたか始められて、それから多言語で復興情報とか生活情報とか流してただけなのでホッとしました。

(金) でもあの時はいわゆる海賊放送だったんです。

(中嶋) そう聞きましたね。半年ぐらい経ってから「そろそろ(認可)申請をいかがですか」と(郵政局から)ポンポン肩を叩かれたとか。

(金) 門ちゃんはその時は？

(門田) 明石のゼネコンに勤めていたので、後々のフォロー、震災で壊れた家屋・マンションの処理(撤去など)や補修に携わる状態でした。大変な状態で、マンション15階建て100何10戸以上の被災調査などに走り回りました。

(金) 小山さんは？

(小山) その日は西区の方のトラック会社をやってました。その朝、地震発生時は自宅で右往左往してましたが、とりあえず(被害状況を)見に車で行き、その途中は長田の辺りはシツチャカメツチャカで、北の方(内陸)へ行くに従って被害が無くなるのは何故か、と不思議でした。

(金) 地震被害の(地域で)違うところですね。

(小山) 断層の違いとかは分かりませんが、同感です。

(金) 3人の方々が災害の中で、一人は行政・県で災害対策、一人はゼネコンでハード面の被害対策、もう一人は自宅周辺(兵庫区)と仕事場(西区)との被害差を実感されたとか。阪神淡路大震災を経験したという連帯感はずいものですね。それで「1.17 神戸に灯りをin 長田」という長田に拘ったところに参加するというのは、同じく49陽会の和田幹司さんが最初からその実行委員長をする中で声掛けを、そしてそれがFM わいわいに繋がったのですね。兵庫高校の人たちの団結力って、すごいものがありますね。

(中嶋) 同窓会の「武陽会」というのがあって、武士の「武」と太陽の「陽」。

(門田) 昔、武陽原という地名があって、その名前を付けたんです。

(中嶋) 高校のあった辺りを「武陽が原」と言っていました。

(金) それが武陽会ネットワークですね。

(中嶋) 兵庫高校の卒業生は意外と半分ぐらい地元、神



戸周辺に残っていて、割りと同窓会などの集まりも多いです。

(金) それでみなさん、49陽会でいつも会ってたんですね。それで、小山さんがコマーシャルを集めるにも同窓の地元中小企業の社長さんも多かった。

(小山) それほどでもありません。私の会社など田舎でしたから被害はそれほどでもなく、会社が壊れたとか燃えたとかありませんでした。物流など悪化しましたが、みんなで連帯してた感がありました。

(金) 武陽会の同窓生同士の集まり(放送)で、門ちゃんがミキサー担当、小山さんが財務、中ちゃんが司会進行をされてましたが、自然発生的にそうなったのですか。

(小山) 私は、安本さん(司会進行担当)、我々のマドンナでしたが、彼女からの指名で財務担当を仰せつかったから。

(門田) 私は以前からFM放送わいわい仲間のわだかん(和田幹司)の番組「スタート長田」にゲストで呼ばれた時にミキサーをやっている方を見て、自分もしたいと思ってミキサー経験をさせてもらい、引き続いて「ゆうかりに乾杯」でも担当させてもらいました。

(中嶋) 私は、わだかんが一番エポックで、時々会っていたのが自分の番組にも出してくれということで放送ゲストに、それから次々と他番組「アフタヌーンねね」に出るようになっていました。それで、FMわいわいから新しい番組枠を頂けることになって、わだかんの声掛けで揃ったメンバーが意気投合してやることになった。



3. 放送のオープニングとBBQ(バーベキュー)会

(金) それから番組の頭のオープニングをもう一度聴きましょう。

「ゆうかりの葉、ゆうかりの葉、ゆうかりの葉を押し立てろ! ヤーレヤレー グルマイタホイ! ゆうかりの葉、ゆうかりの葉、ゆうかりの葉を押し立てろ! ヤーレヤレー グルマイタホイ! (コンコンコン プシュー ドクドクドクン) ゆうかりに! 乾~杯~!」

これは応援歌? 応援する時にいつもやる?

(小山) まあ、応援歌ですね。

(金) 「ゆうかりの葉・・・」に続く「コンコンコン・・・」は高校生向きじゃないですね。

(中嶋) 応援合戦する時のシュプレヒコールですね。「頑張らんかい!」という類です。

(金) 春のBBQ(バーベキュー)会の映像を見ていただきましたが、すごく沢山の方(ゲスト)が来られてます。兵庫高校の現役一年生も既にこの応援歌はご存知なんですね。

(中嶋) 代々引き継がれています。



(門田) 新一年生が入学したら、指導者(上級生たち)が昼休み時間にやって来て教えてくれるんです。

(金) 先生じゃなくて生徒から生徒へということで、しかも音楽の時間に習うということではないんですね。あの時(BBQ)一年生が台に登ってやった時はびっくりしました。あれが何十年と年代を超えてみんなで唱和できるというのは、なかなかですね。

(門田) 歌唱(応援歌各種も)指導が昼休みにあった。

(金) この番組は154回、様々なゲストにお越しいただきましたが、兵庫高校出身の方、繋がりのある方など、番組だけでなく鷹取コミュニティセンター(TTC)と、たかとりカトリック教会と、中庭でのBBQを開催しようという発案は、一体何なんですか？

(中嶋) 何年間から「ゆうかりに乾杯」放送をやりますと、ゲストの方々ともたまたまお会いして旧交を温めたい、ということがありまして、BBQをやろうというのが発端でした。

(金) 総会(委員会)もやりましたね。

(門田) 放送をサポートする(組織として)放送委員会を作って、決算書などを。

(中嶋) その時まで、FMわいわいが放送されていたスタイルと違った形で参加させていただいた。費用も負担する、(番組)運営も自前でやる。金さんからご希望があった、耳の不自由な方にも分かっていたような番組にして欲しい、ということ



があり、インターネットで(放送)記録を(文章で)載せよう、という辺りから始めたのです。

(金) 番組の内容を(録音)テープから起こして、武陽会の49陽会のサイトに上げていただきましたね。ものすごい資料集になった。

(中嶋) 今日は来ておりませんが、たろうちゃん(佃由晃)とさくらさん(安本久美子)も加わっていました。

(金) そういう方々と、番組をどう作るか、ゲストも毎回変わる中でどう旧交を温めるか、また頂いたお金をどう活用するか、いろいろありましたね。

(小山) コマーシャル料を載せてやるので、ある意味公金です。使い途をみなさんにお知らせしなければなりません。帳簿をきちっと付け、決算をし、委員会で承認をもらう形を取ろうと、会計やりました。

(金) 本当に公明正大ですね。今の政治家さんにも聞かせたいものです。そんな苦労の後のお楽しみとして、BBQ、会費を若干に、委員会からもサポート、鷹取教会の中庭で、この被災地でいろいろな人が出会う場を用意したのですね。

この出合の中のエピソードで、思い出すことがありましたら、お一人ずつお願いします。

4. 「ゆうかりに乾杯」放送のエピソード

(小山) 番組で放送が終わるとゲストと一緒に馴染みのお好み焼き屋へ行きます。いつも私が電話して予

約する係でもありました。これがみんな連帯に、次に繋がる役目だったんですね。

(金) 縁の下の力持ち。ミキサーやしゃべり手だけとちゃいますよ、とのアピールですね。この地域で、地域内の人だけでなく外の人とも食べたり飲んだりできましたものね。

(中嶋) 私たちの放送に来ていただいたゲストは、高校の同窓生は半分ぐらいで、他に FM 放送わいわいの多文化共生の理念に基づいてご近所の方、いろんな活動を手掛けられている方を選んで来ていただいたので、今まで交流の無かったグループの方々が顔を合わせる機会を創っていたのではないかと思います。

(金) 繋ぐ、メディアというのは「繋ぐ媒体」ということ。実際に体感することをやってkいたのでですね。年代も違い、仕事場も違う人達を繋いできた。

(中嶋) 中にはそれからファンになっていただいた方も結構いらっしゃいました。番組をいろいろサポートしていただいたり、新しい分野の紹介も賑やかにやっていけたと思います。

(小山) 私も今までは(同級生同士の)横のつながりはあったのですが、縦のつながりはほとんど無かった。この放送のお陰で縦の繋がりができましたね。

(金) 後輩の方とか、ものすごい先輩の方、80歳超えとか、来られてました。地元の黒田食品、「1.17 神戸に灯りを in 長田」で協力いただいているエキストラ珈琲とかも。エキストラ珈琲の彼女(小室)は島田叡さんの映画撮影に協力も。

(中嶋) 私たちの先輩に、戦時中、沖縄県の知事に赴かれた島田叡さん、半年間の活躍のあと、お亡くなりになった。その方のエピソードを引き継いで顕彰するために30年ぐらい前から活動してきました。高校の歴史が長いので、ユニークな先輩が沢山いらっしゃいます。例えば、少年Hの妹尾河童さん。放送の早期にお呼びした方が、少年Hの親友の「横綱の林くん」(林五和夫)で、彼のこと(思い出)をいろいろ紹介いただきました。



(門田) 兵庫高校の校章をデザインしたのも林さんでした。

(金) 地域の中の高校として古いということは、いろいろな方々が積み重なっていますね。沖縄に行った時に「私、神戸から来ました」って言ったら、「兵庫県ですね、島田叡さんのとこですね」って言われた。「自分の祖母は島田さんのお陰で助かった」と。兵庫県内であまり聞くことのなかったことを沖縄で聞いて、ちょっと驚きました。

(中嶋) 少年H 仲間の林さんが顕彰運動を大々的に始められ、私もお手伝いさせていただいた。今丁度、県下の高校で島田叡さんの話をさせていただいています。生徒さんたちが、「兵庫県にそんな偉い方がいらっしゃった」と、段々と広く知られるようになりました。先程の話。いま映画(「島守の塔」)を撮影されている最中で、来年が沖縄返還70周年記念という契機で封切りされます。

(金) 神戸は沖縄や奄美と深い繋がりがあり、FM わいわいではアイヌの番組も取り上げています。世界との繋がりの中で日本の中の繋がっていることを実感できます。

最後は3人の方々に、FM わいわい・この番組を通じて、メッセージ、こんなことがありました、こんなんでしたよ、これから先は、とかお願いします。

5. まとめとして

(小山) この番組自体、私はマドンナ(さくら、安本)に引っ張り込まれたように、最初のうちは49陽会としての繋がりや学校繋がりを模索していた。今まで154回続いてきましたが、我々も歳をとりました。自身の体調もしかり、尚且つ家族も歳をとったのをつくづく感じます。

我々はこれで(放送から)身を引きますが、後を継ぐ人があって欲しいとの願望は今もあります。ですが、このようなコロナ情勢もあり、中々出てきていただけないので、とりあえず後ろ髪を引かれる思いで残念ながらこの番組から身を引きます。会計としてみなさんにそうお伝えして、現在預かっている残額15万円余をどう処理するか課題でしたが、お世話になったFMわいわいに寄付するので収めていただきたいと思います。これをもって、「ゆうかりに乾杯」のジ・エンドとしたい。

(門田) 小山くんがほとんど言っちゃったんですが、やはり49陽会として他の陽会にはない団結で、県の縦断ウォークとか横断ウォークを実行した歩く仲間もあり、放送することでもこの様に団結して続けてこられたのは、仲間意識が発揮されたからだと思う。引き継いで行って欲しいが、課題もあり、こゝらで終わりにすることになってしまった。

(金) 門ちゃんは東日本大震災直後にも被災地に駆けつけるなど、また、ご自分のスキルで物を作る(造作)など活躍された。中ちゃんも被災地には仲間たちと何回も訪れて、FMわいわいにも設置されていますが「災害臨時FM」としての交流・支援。本日9月28日(収録日)のNHK朝ドラでも気仙沼での災害臨時FMの話がでたり(タイミング)ピッタリで、被災地の人たちの気持ちもピッと来ました。

(中嶋) FMわいわいにべったり入らせていただけたこと、私の人生の中でもものすごい大きな思い出をいただきました。ちょっと勉強っほいですが、FM放送の運営は難しいもので、災害臨時FMから平常の放送になるまで大変ですね。問題点が明確になる中で、金さんから提案いただいた私たち「ゆうかりに乾杯」の放送のやり方というのがモデルケースではなかったか、と思っています。

ここで止めるのは勿体ないとは思いますが、しかし結局、私たちの一世代若いグループも手伝ってくれて参加してくれていたのですが、まだ現役に近く、今回継続が無理だったのは残念です。まあ潮時をして店仕舞いです。一つ残念だったのが、母校の現役1年生を1年に1回放送に呼んでいましたのですが、私の孫が母校に入学したので呼べるなあ、と期待していたがコロナ禍で中止となりできませんでした。それだけが心残りです。

(金) 残念でしたね。FM放送の方から高校の方に呼びかけたいですね。先程小山さんやみなさんが思ってたように、FMわいわいの放送に、自分たちからの発信、自分たちが繋ぐ人間メディアとして、資金を確保して番組制作をするという新しいモデル、マスメディアでもなく災害臨時FMでもない地域の局としてみんなの発信場所(提供する)というやり方、一つの提案でしたね。

それは財務(小山)さんのような役割もあったし、(番組)を回していくメンバーのあったし、という



一つのシステムを創る、会社でもなく、NPO 法人でもなく、これ（放送）のためにだけ創ったという新たな取り組みだったと思っています。

FM わいわいが阪神淡路大震災を機にできたように、まちづくり、人と人を繋いでいく一つの提案だったと言えるのではありませんか。（FM）設立26年経って、これからの街のあり方とか人の暮らしとか生活を良くしていくとか、そういうところの提案

（FM に残金寄付）をいただいて、FM わいわいの中にただ入れるだけではなく、何かの基本的なものの原資にしたいと考えています。次世代のために何か創るのに使いたい。ご寄付の申し出を受けたときに、みなさんの154回の放送とその周りのものから生まれた果実のようなものです。このようなことはもっと広げて行きたいものです。

（小山）我々は、ただ消え去るだけではなかったね。

（金） 例えば「ゆうかりに乾杯基金」みたいにしたら良いかなと、巻物にでもしますか。

（小山）それで我々がやってきた意味が確認できます。ありがとうございます。

（金） さて、みなさん、いかが聴いていただけましたでしょうか。155回の「ゆうかりに乾杯」、一応の幕と相成りました。これだけのことをやって来たというものを、M わいわいのコンテンツで何時でもお聴きいただけるようポートキャストで耳からあるいは U-tube で動画も繋げながら、いろいろ聴いていただければと思っています。

最後にもう一度、あの歌（オープニング）を聴きましょう。

「ゆうかりの葉、ゆうかりの葉、ゆうかりの葉を押し立てろ！ ヤーレヤレー グルマイタホイ！ ゆうかりの葉、ゆうかりの葉、ゆうかりの葉を押し立てろ！ ヤーレヤレー グルマイタホイ！（コンコン コン プシュー ドクドクドクン） ゆうかりに！ 乾～杯～！」（みんなも唱和）

154回続きました「ゆうかりに乾杯」、兵庫高校49陽会みなさんの様々な取り組みを聴いていただきました。みなさんも自分たちの色んな所で乾杯をしていただきますように。



「ゆうかりに乾杯」の放送記録（音源と概要）は2022年4月以降、下記の URL にてご覧いただけます。

<http://kdskenkyu.sakura.ne.jp/yukari-index.htm>